

よりよい課題解決の方法を考える「公共」での授業実践
—エシカル消費の現状から考える課題解決型学習の在り方—

県立瀬戸北総合高等学校 田邊 充司

1 研究のねらい

本校は総合学科であり、「総合的な探究の時間」で、第3学年のゼミ活動を通して論文を成果物として提出している。こうした取組に加え、各教科においても探究的な学習やそれに類する活動を取り入れている。そこで、本研究では、「公共」の授業において、社会課題を主体的に解決しようとする態度を育成することをねらいとした。

2 研究の実際

(1) 単元指導計画

科目名	公共	学年・類型	2年・文系	単位数	2	
単元名	契約と消費者の権利・責任 この単元は、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「(1) 主として法に関わる事項」に該当する。					
単元の評価規準						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
契約の在り方や消費者の権利、エシカル消費に関する基礎的な知識を身に付け、その内容や意義を理解している。		消費者問題に関する課題について、資料や事例を基に考察し、自分の考えを根拠とともに表現している。		/		
次	授業のねらい・学習活動	重点項目 ※1			評価方法	
		知	思	主		
1	ねらい「契約について理解する」	●			まとめのシー トの記述	
	① 契約の成立の要件や契約自由の原則について理解する。					
2	ねらい「契約についてのトラブルから消費者問題を考察する」			●	まとめのシー トの記述	
	② エシカル消費に関連する消費者トラブルから情報の非対称性や逆選択について消費行動の原則について考察する。					
	③ 虚偽表示を見抜く方法を考察する。					
3	ねらい「エシカル消費をよりよいものにするために自ら追究する」			●	ワークシ ートの記述	
	④ エシカル消費を促進する方法について問いを基に追究する。					
4	ねらい「エシカル消費について追究する」			●	ワークシ ートの記述	
	⑤ エシカル消費について、課題を解決する方法を追究する。					
5	ねらい「課題解決学習の振り返りを行う」			○	●	まとめのシー トの記述
	⑥ エシカル消費を促進する方法について自らの意見を示して追究する。					
定期考査		○	○		定期考査	

※1 指導に生かす評価には「●」、評定に生かす評価には「○」

(2) 第5次の評価基準（ルーブリック）

	A	B	C
思考・判断・表現	学習内容を根拠に、エシカル消費の促進について具体例を挙げながら自分の意見を明確に表現している。	学習内容を根拠に、エシカル消費の促進について自分の意見を表現している。	学習内容を根拠に、エシカル消費の促進について自分の意見を表現していない。

(3) 実践と成果


ア 実践の概要

単元の第1次には契約と消費行動の原理について学習した。第2次にはエシカル消費という消費行動について説明し、実際には環境負荷が大きいにも関わらず、環境に配慮した商品であるかのように見せるグリーンウォッシュの問題について考える機会を設けた。そして、「どのような方法でエシカル消費を通じてより公正な社会を実現できるか」という課題を設定した。第3次の授業では、「エシカル消費をよりよいものにするため」の問いを作成し、共有する活動を行った。ロイロノート・スクール（株式会社 Loilo、以下「ロイロノート」と表記）で投稿したスライド（資料1）にある「なぜ（どのように）+エシカル消費+〇〇」という組み合わせを手がかりに、生徒が、多様な問いを生み出し質の高い問いを見いだせるよう工夫した。第4次の授業では、第3次の活動を振り返り、調べた内容を基に「エシカル消費の課題解決のための方法」について仮説を立てた。調べる際、ロイロノートに投稿したスライド

【資料1 ワーク内容の問い】

問いを作るワーク	問いを作るワーク 1つめ
なぜ + エシカル消費 + 〇〇〇 ⇒この組み合わせでできる問いは =何故エシカル消費は〇〇〇なのか？	なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 + なぜ + エシカル消費 +
どのように + エシカル消費 + ××× ⇒この組み合わせでできる問いは =どのようにエシカル消費を×××するか？	どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 + どのように + エシカル消費 +
※「なぜ」と「どのように」を使用する量は自由 「エシカル消費」の部分は… 食品ロス・フェアトレード・ファストファッション 地産地消・アニマルウェルフェア・脱プラ EV・授産製品 などの具体的な言葉にしてもよい	

【資料2 調べ方について】

②調べる	調べた内容の例
<ul style="list-style-type: none"> ・問いに関連することを調べる。さらに、分けることを簡単に書く。 ・エシカル消費について既に行われている活動例を見ることや、会社での取り組みもよい事例になる。 ・エシカル消費の観点を深めて調べると良い。「エシカル消費 食べ物」ではなく、「食品ロス 卵」など具体化するとよい。 ・時間は20分。 	 <p>わかったこと 食品に購入傾向があることが分かる。全体的に日用品に消費傾向があることが分かる。</p> <p>出典—https://dentsu-ho.com/articles/7817</p>

【資料3 仮説について】

③仮説を立てる	仮説を作るワーク 最高の問い
<ul style="list-style-type: none"> ・できた問いと調べた内容から今の時点で自分の答えを考える。 ・しっかりと理由を述べるとよい（なんとなく・・・はNG） ・根拠を客観的に述べるべき 例:「××というグラフで 〇%の人が答えている」など 	仮説（調べた内容を根拠に書く）

の内容（資料2、資料3）を説明しながら進めた。活動の最後には、生徒各自が立てた「問い」「調べた内容」「仮説」をワークシートに記入し、ロイロノートの提出箱に提出した（別添1）。第5次の授業では、これまでの学習活動について振り返りを行った。ロイロノートで投稿したまとめのシートにある「単元の問いに対する学習後の考え」の欄にエシカル消費の促進する方法について考えを記述し、「単元で学んだことの振り返り」の欄に振り返りに第3次から第5次の学習活動の取組や内容、今後の学習について記述した。

イ 成果

本実践を通して、生徒の思考・判断・表現において、質的な向上が見られた。

問い「どのような方法でエシカル消費を通じてより公正な社会を実現できるか」に対して、学習前にはエシカル消費に対する理解が十分でなく、「環境にやさしい商品を買う」といった一問一答的で断片的な記述が多く見られた。また、その捉え方も一面的で、記述量自体も少ない傾向にあった。しかし、学習後には、資料4の通り、具体的な事例を基に自らの考えを形成し、エシカル消費を身近な生活や社会の課題と関連付けて捉える生徒が増加した。さらに、「結論」と「根拠（事例）」を結び付けて論理的に記述する姿が見られるようになり、知識を活用して多面的に考察し表現する力の伸長が確認できた。

【資料4 生徒が記述しロイロノートに投稿したまとめシート】

【単元名】 契約と消費者の権利・責任			
【単元の問い】 どのような方法でエシカル消費を通じてより公正な社会を実現できるのか？			
学習前 ファストファッションへの考えや作っている人の環境を知る。		学習後 エシカル消費で公正な社会を実現するには、服を選ぶときにその背景を意識することが大切だと考える。例えばファストファッションには低賃金労働や大量廃棄の問題があるため、必要な分だけ買い、長く使える服を選ぶようにする。	
1時間目 (学習内容のまとめ) 契約は何円で買って買ったときに成立する (印象に残ったこと) 口約束も契約になることもある	2時間目 (学習内容のまとめ) 売り手と買い手の情報の差(情報の非対称性)による逆選択があるからいろんな法で定めている。 (印象に残ったこと) ごり押しに負けそうだからくーりんぐおふとか	3時間目 (学習内容のまとめ) どのようにエシカル消費をより良いものにするかについて最高の問いを考えた (印象に残ったこと) 疑問とかはたくさん出るけどそれをうまく言葉、文にするのが難しかった	4時間目 (学習内容のまとめ) 問に関する情報集めて(根拠となる画像、グラフあるといい)それから仮説を立てた (印象に残ったこと) 問いはなぜからどのようににするだけでいいお答えが出にくいになった
5時間目 (学習内容のまとめ) (印象に残ったこと)	6時間目 (学習内容のまとめ) (印象に残ったこと)	7時間目 (学習内容のまとめ) (印象に残ったこと)	8時間目 (学習内容のまとめ) (印象に残ったこと)
単元で学んだことのふり返り 問いを考える際、漠然とした疑問はあっても、それを明確な言葉にすることの難しさを感じた。しかし、一つ問いを立てることができれば、そこから焦点を絞って考えを深められると分かった。今後は総合的な探究の時間などで、問いを立てる練習を重ねていきたい。 また、仮説を立てる際には根拠が重要であり、説得力のある記事やグラフなどを活用することが有効であると学んだ。			

3 今後の課題

具体的な事例を基に自らの考えを形成できるようになった生徒もいたが、資料の内容を整理する段階に留まる生徒も見られた。また、エシカル消費を「商品選択」の視点で捉える傾向が強く、社会構造や企業活動との関連まで多面的に考察することには課題があった。さらに、根拠を示して表現する力は向上した一方で、複数の根拠を比較・関連付けながら論理的に表現する力には個人差が見られた。今後は、多様な立場の資料や対話的な学習を通して、より多面的・批判的に考察する力を育成していく必要がある。